

2024年  
9月2日 No.1760



# 週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>



## 潮流

### 「教師の日」で感謝とエールを

認定NPO法人Teach For Japan(TFJ)代表理事 中原健聡 ㊦

資料

### 『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について(審議のまとめ)」に関する意見募集(結果概要)

——文部科学省

## CONTENTS

#### ▶ 2 潮流

「教師の日」で感謝とエールを

中原健聡(認定NPO法人Teach For Japan(TFJ)代表理事) ㊦

#### ▶ 5 解説・ニュースの焦点

○幼稚園の学級編制基準、30人以下に改正を検討  
○困難抱える高校生に支援策——東京都

編集部

#### ▶ 8 特集

地域でのスポーツ・文化活動の融合

編集部

#### ▶ 14 校長講話

9月の再スタートに

藤木美智代(千葉県・船橋市立大穴小学校校長)

#### ▶ 16 実践! 校長塾

「代用附属学校」の取り組み③

本村一浩(佐賀市立本庄小学校校長)

#### ▶ 19 資料

『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について(審議のまとめ)」に関する意見募集(結果概要)

文部科学省

#### ▶ 35 教育問題法律相談

闇バイトの実態と、巻き込まれないための対策は

澤田 稔(弁護士)

#### ▶ 36 学習指導要領のアイデアを实践する

「次期教育振興基本計画」から考える①

玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

#### ▶ 38 私たち、子どもの全力サポーター!

子どもと性と多様性

大橋すみれ(公認心理師)

#### ▶ 40 地方議会から(注目の質問ダイジェスト)

健康・体育①

編集部

#### ▶ 42 変わる教育委員会

先進的・先端的な学びへの改革に取り組む学校を応援!  
～学びの改革パイオニア校構築支援事業②～

一色保典(長野県教育委員会学びの改革支援課教育主幹兼義務教育指導係長)

#### ▶ 44 現場仕込みのメンタルケア論

ボディイメージのつまずき

川上康則(東京都・杉並区立済美養護学校主任教諭、  
立教大学兼任講師)

#### ▶ 46 こう進める! 保護者・家庭との連携

学校行事参観、保護者への事前周知のポイント

長島ともこ(フリーライター・エディター)

#### ▶ 47 BOOK

『親に知ってもらいたい 国語の新常識』

『学校は誰のもの?』

～子ども主役の学校へ、いま古屋から～

#### ▶ 48 自著を語る

『教師がつらいときに読む本』

『教職を少しでも長く続けるための無理をしない働き方』

観世あみ(漫画家、児童生徒支援員)

#### ▶ 51 データで見る教育

学級担任等の担当制 在校等時間

#### ▶ 52 マイオピニオン

学校のプールの在り方

—共同での利用—

天笠 茂(千葉大学名誉教授)

# 潮流

認定NPO法人「Teach For Japan  
(TFJ)」代表理事

なかはら たけあき  
中原健聡さんに聞く①



## 「教師の日」で感謝とエールを

「教師の日」アクションの一つとして  
昨年に続いて今年の10月5日に  
「教師の日ギャザリング2024」を  
開催する予定だ。

2011年に大学卒業後、スペインへ渡り3年間サッカー選手としてプレー。選手時代に行ったキャリア教育の講演活動を機に、人が育つ環境をデザインすることをミッションに活動を開始。2014年に帰国後、大学事務職員、Teach For Japan Fellow、私学の高等学校の学校開発・経営に従事。2020年1月に代表理事に就任。

### 公教育にアプローチする「強み」に

——「フェローシップ・プログラム」に参加した人の「強み」は何でしょうか。

中原 日本では、2013年から「フェローシップ・プログラム」を実施してきました。プログラム期間を終えた後も、教員を続ける人が半数近くいますし、学校現場から離れた人たちも教員を続けている人と協働することで、学校内外のリソースを人を介して統合して公教育にアプローチし続けることができることが「強み」になると思います。

プログラムを開始して10年以上が経ち、学校現場から一度離れて民間組織や別の分野で活動していた人が、再び教育現場に戻る事例が出てきました。中・長期的なキャリアの視点で、学校と社会を行き来する人が生まれています。これは一つの大きなインパクトを生み出す可能性があります。個人が、学校と民間企業の間で流動性を高くキャリアを積めるようになったことで、学校や民間企業のリソースを、その人を介して統合できる仕組みにつながっています。私たちは、「フェローシップ・プログラム」の「次の10年」の成果として、このような社会的な人事異動を経験した人材が、ネットワークを活かし



てインパクトを社会に対して与えていけるようにしたいと考えています。

——2015年に「教師の日」を設定されました。その背景は。

中原 最近の学校の教師を取り巻く環境を見てみると、教育に情熱を注いでも、それすら「やりがい搾取」と言われたり、日々の活動に対して感謝をされる機会すら少ない気がします。つまり学校現場にいる人たちをエンカレッジ（勇気づけたり、励ましたりする）する姿勢に乏しい社会の現状に、私たちは大きな違和感と危機感を持っています。

10月5日は「World Teachers' Day」として、世界中で教師に感謝する催しが行われています。そこで、私たちも毎年10月5日の「教師の日」は、日本で子どもたちと向き合うすべての教師や教育関係者に、感謝とエールを送る日として、社会に訴えることにしました。

もちろん、公教育の現場の課題について改善していく動きは大事です。しかし、気をつけなければいけないのは、現状を批判するだけの姿勢ではなく、実現したい未来の社会の在り方やビジョンについて議論する上で、それに向けて共通に認識した課題に対するアクションを起こすことです。そのためには、どんな未来を描きたいか、その未来に向けて何が課題になっていて、どのようなアクションが必要になっているのかを建設的に議論でき

る場をつくる必要があります。

さらには、公教育を巡る課題については、学校だけ、教育委員会だけ、さらには企業などだけでも解決は難しいという複雑さがあります。ですから、できるだけ多くの人が当事者として未来を創造する場に参加できる機会をつくっていく必要があると考えて教師の日にイベントを行っています。

## 今年も「教師の日」アクション

——今年の10月5日の「教師の日」には、昨年に続いて、関係者が語り合えるイベントを計画されています。

中原 「教師の日」のアクションとして、昨年は「教師の日ギャザリング2023」を株式会社ベネッセコーポレーションと共催して開催しました（写真）。

「明日からの教育を教師とともに考える」というセッションでは、教育長から力を入れている施策への思いをお聞きしたり、「教育についていまワクワクしていること」を参加者同士で交流したりしました。このほか、企業や社会でも重要なキーワードになってきているウェルビーイングをテーマに、多様なセクターが一つのキーワードでそれぞれの立場

から対話するセッションなどもありました。

参加者からは、「教師である私自身がワクワクしようと思わされるイベントでした」「現在につながる新しい学びがたくさんあり、明日からまた頑張ろうという気持ちが出てきた」などの感想をいただきました。詳しくはホームページでも紹介していますので、ご覧ください。また、「先生ありがとうムービー」など、子どもたちや保護者からの声を短い動画にしています。

——今年の「教師の日」アクションはどういう内容でしょうか。

中原 「教師の日ギヤザリング2024」は10月5日に開催予定です。「教師の力を引き出す」それぞれの立場でチャレンジできることは「」をテーマにしています。企業や研究者、文部科学省の職員や現場の校長、地方自治体の首長など、多様な人が登壇するパネルディスカッションや講演、参加者同士の交流セッションなどを予定しています。パネルディスカッションでは、「子どもも大人もウエルビーイングな教育のあり方とは」について提案を受けて、学校現場の実践や市政の視点から取り組み内容を報告してもらい、参加者で交流する学びを予定しています。

参加無料のイベントですので、詳しくはホームページの関連サイトをご確認願います。

## 教育現場を支える「仲間」として

——学校や教師について、感謝を言い難い社会の状況に感じます。

中原 子ども時代の学校での経験が決してポジティブなものではなかったり、教師とい関係構築がなかつたりした人もいると思います。また、教師になったが、想いとは違い現場を離れた方もいると思います。そうした経験のある人にとっては、教師の日の趣旨に抵抗がある人もいるかも知れません。

しかし、人に感謝をするという行為そのものは、決してネガティブなものではないはずです。教師に限らず、例えば、病気になったときに治療してもらった医者、日々の生活を支えてくれる物流の仕事をしている人など、世の中のさまざまな分野で働いている人に対して、リスペクトを持ち、感謝の気持ちを表明することは、とても大切なことだと思います。私たちは、教育や教師に関わる活動をしているため「教師の日」を活用して感謝の意を表していますが、自分の生活を支えているさまざまな人に対して、感謝の気持ちを持てる

ことは、とても重要なことだと考えています。

——学校の現場へのメッセージを。

中原 学校の現場で、教職員や管理職の皆さまが、日頃の教育活動を通して子どもたちの生きる力を育まれていることに対して敬意を表するとともに、現場の先生方と一緒に頑張って、学校が目指すビジョンに対して共に「仲間」として活動を続けていきます。

さまざまな教員免許状の活用により、多様な人材が学校教育に参画し協働できる流動性の高い教員組織を構築し、教員不足などの解消と、学校教育の質と多様性、包摂性を高め、すべての子どもたちの学習権を保障する公教育の実現に向けて尽力してまいりますので、これからも共に活動していきましょう。いつも、ありがとうございます！

「教師の日ギヤザリング2024」関連サイト || <https://teachforjapan.org/programs/teachersday/>

「先生ありがとう2023」 || <https://www.youtube.com/watch?v=FdzBcrPj10>

